

静心しゅー



第9号

★熊野高校静心図書館★

2018. 10. 23

先生たちがすすめる本

第4回は
理科 松下先生
数学科 大屋先生
の2人です。

1人目 松下先生が

おすすめしてくれる本は…

『人魚の眠る家』
東野圭吾／著 幻冬舎

Q.あらすじを教えてください。

- A. 「娘の小学校受験が終わったら離婚する。」
そう約束していた夫婦に突然の悲報が届く。娘がプールで溺れた。
脳死という現実を受け入れたが…。
娘との生活を続ける母の愛が周囲を巻き込み、人生の歯車が狂い始め…

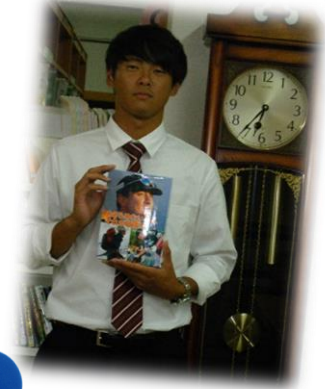
Q.おすすめコメントをお願いします。

- A. 東野圭吾といえば「ガリレオ」や「加賀恭一郎シリーズ」のミステリーを
思い出す生徒も多いでしょう。しかし、今回はまさに今もこれからも続くで
あろう日本の少子高齢化や医療の問題に一石を投じたものになっています。
本題では少女の脳死にフォーカスされていますが、誰しも家族として体験
するであろう未来に切先をつきつけられた気がしました。
「お前ならどうする」と。
東野圭吾はミステリー以外にも「天空の蜂」「手紙」など社会問題を扱った
作品も多く、「考えさせられる」ことがしばしばあります。
作者の問いかけに答えを考えてみて下さい。

2人目 大屋先生が

おすすめしてくれる本は…

『あきらめないこと、それが冒険だ』
野口健／著 学研



Q.あらすじを教えてください。

- A. 日本とエジプトのハーフであり、外交官の父をもつ主人公 野口健さん。
エリートの父とは逆に小学4年の頃、成績オール2という勉強ができない
子どもだった。しかし、外交官という職業柄、アメリカ生まれ、日本、
エジプト、イギリス、イスラエル、スペイン、イタリア、ドイツ、デン
マーク、ノルウェーなど世界各国を飛び回るが、いじめにあう。次第に
腕っぷしは強くなり、いじめはなくなるが、「ワル」になり、どんどん落
ちこぼれていった。
ある日、一冊の本と出会い、落ちこぼれだった主人公はいくつもの困難を
乗り越え、世界七大陸最高峰の最年少制覇の記録を打ち立てた。

Q.おすすめコメントをお願いします。

- A. 小学5年生のときに大怪我をして、何もかもが嫌になり、人生が嫌だった
時期がありました。手術をして、入院、車椅子、松葉杖、それから1年間
のリハビリを経験しました。小学5年生という動きたい時期に動けない。
イライラが溜まる一方で、そんな時、担任の先生がくれた一冊です。
当時は野口健さんのことなど知る訳もなく、どんな人だろうと調べたのが
始めでした。すると出てくるのは”世界七大陸最高峰の最年少制覇”とい
う輝かしい実績で単純に嫌気がさしました。実際読んでみると、ハーフで
あちこち飛び回り、いじめにあい、親も離婚。進学校に入学させられ、
落ちこぼれだから女性との交際も許されないという人生を送っていました。
しかし、山を知り、登山を始め、周りを見返していくストーリーやエペレ
ストに登頂するのに2回失敗しても諦めない根性に当時の自分は胸を打た
れました。さらに登頂するだけでも困難なのに、山のゴミ拾いをする清掃
登山を始めて、常に向上心を持ち続ける姿勢に「自分もこういう自分の人
生に誇りを持つ生き方をしたい」と思えました。
人生がおもしろくない人、挫折している人、自分が輝ける場所は必ずあり
ます。そうではない人もぜひ読んでみて下さい。